

感 謝 状

思ひ返りますれば一九四五八月十五日。今までのまをら雲は何處ともなく走り去ってやがて天空に現はれた大陽は世界をハッと照らした。そしてそこに照らさるものは自由の心であり、文化の心であり、平和を愛する心である。貴人の姿であった。

私達は知らなかつた。こんな世界があらうとは。

そして今や世界の頭上には自由、平和が訪れた。口はは二の自由、

平和、文化の心を建設しようとする努力す。孫にたつた。だが行き

には荆棘の道が長く続いて居た。それは経済困窮の窮の由

題であった。衣食足りて礼節を知るの如く、経済成長の缺乏に

依る道德の乱れは益々強烈となり、一時は私達の希望も消え

失せようではなかつたか。とさへ思はれたが幸ひは民はこれによく堪え、

そして亦貴人からの温かい救助に依り終戦五ヶ年を経ようと

す。今日少しく落着を得て来りました。

私達等ははとうキ勉学の爲の資金に大変苦しみました。

だ。私達は種々の手段を用ゐてこれに一は果命堪えて来たつキリ

です。ヤ一て今後とキ一は果命勉学の爲の日本を理想の

文化口と化す。一は果命努力を至します。

ニ。ニうう物質受配者と一厚く功礼甲上げるとキ

に。この御恩に報ゆるべく一は果命努力せんとを誓ひます。

三重師範学校

本料文ニ興奉 川合 汎

一九五〇年四月廿七日

三重大學學藝學部

津市丸ノ内殿町 (津局區内)

電話津五番

昭和

年

月

日

此の程は、お心ごとくあつたところでありました。誠に、お心ごとく御座りました。うれしく頂戴致し、厚くお礼申上げます。

私達一家は、あの祝ひ、戦災の中を三回もくりぬけ、冬を乗り越えました。今も猶、あの祝ひ、あの祝ひ、お心ごとくお心ごとく。現在此の程に生きています。

事心、全く不思議な存の思われます。才一回の罹災は、私のお世学校三年生、あの祝ひ、あの祝ひ、東京の山の手に住んでいました。四月二十五日山の年の

附録は、一晩の間に焼野原と化し、私達一家は、お心ごとくお心ごとく。懐しの東京とは、昭和二十年六月十八日、此の三三三縣の土地へ引揚つて参

りました。一、私達一家は、二月もたつたころ、七月二十五日、雨の暴風に、よく家は吹き飛ばされ、次いで二十七日の夜、すうみり雨の焼けつていま

りました。私達一家は、全く丸裸となり、精神的にも、物質的にも、大打撃され、お心ごとく。全くお心ごとく。私達一家は、お心ごとく

生活には、お心ごとく。五ヶ年は、頑張り抜く、お心ごとく。不陰様、お心ごとく。此の春、お心ごとく。三重大学、三重師範学校を卒業させ

ご戴名寺さま。とて教育者として立派に立つて自ら勤めて参りました。
その時、女御様をうけ、「あぐりまの本末にありぬとう御座りました。
心から感謝致します。

かーい。

三重県津市之郡所四八八
中村良江

私は一九四六年八月一九日満州の新京
より引揚げ、すぐに福岡第一師範紀元校
に入学者となったのであります。が、なにぶん
引揚者の事であり、学費を服を作る事も
出来ず、現在着ているボロ服も満州より
持ちかへたものであり、就職を目前に
ひかへて困っていた所でありました。

この年のこの物資の配給は私にとり
ましては早天の慈雨の如き感じが
両親と共によろこんでおるのであります。

日本国民持に戦災者引揚者にとり
ましてはこの慈善事業は実に天恵で
あり、涙を以て感謝する者も少なくなからう
と思ふのであります。しかもこの事業は
日本国民の一生忘れ得ざるものであると共に
日本一史の上に於ても永久に消える事は
なからうと思ふのであります。

この事業に感謝致しますと共に教師として
立派な子供達の育成に専念する事を
誓ひます。

今回思ふも寄らぬ。かゝる多くの品々を載せ、有難く
心より厚く御礼申上ます。

貴下の此の有難き御心盡し、その國境を越え、民族の別
なく等しくお掛け下さる人間愛の深さ、尊厳には、唯々私
達の頭下り、又一面非常に嬉しく感謝致し居ます。

かつて一時の悪夢より良からぬ戦い、いんば我々日本人
に對し憎悪の念を抱かせられる事なく、かへつて

國家の再建に際しては多大の御救助、御指導等載せ、
且つ又今日見るが如き、数多の物資を賜りたる貴下の

御情、それ等一切の根底を一目見ると流れる、あの平
和を求め愛する御心、かゝる美しき心情の偉大さに私の良心

より敬意を表すると共に、憧憬の念を捧げ止みません。

今日、貴下の此の贈り物と有難く載せすと共に、一日も早
く平和な國家を築き上げ、更には平和五界の建設への道
へと進み、貴下の御心意の一端にもお答へ致したいと思ひ
ます。

昭和二十五年四月十八日

福岡縣三池郡高村町野間

酒見信之

この頃から春と共に我が日本も平和な春が訪れ参りしゆ
そして私達の学校も一面新緑の中に色々の花が咲き出します
不足がらうの学校設備も社会の要によりわすかなる整備を参りました
又庭の復興も甚に学校社会新の再建設の爲に成るは如何なる苦にも
負けるのみなく張ちて居るつもり
この時に當り予々このうらやみのしむるもプロバトに私等はいふまで
なくして候が敢りませぬか
この幸福は知らせぬ参りしゆこの時私達には皆長道の歩み覺え
感謝のこころに満ちしゆ
私達は是に迎へて勝つ温の好意に答へて行く道にまゝ進んで
止む事と心に誓ひました その誓いと共に今この感謝は私達の胸に
永久に云り得るつもり
昔はにびる校舎の窓を眺めれば新緑の心も成すべしと
天竺にこの心を表します

福岡大学第一師範学校 久留米分校

江崎美奈子

恩賜
同胞援護會愛知縣支部

豊川職業補導所

昭私二十二年四月十日

初二 鈴木雅子

私たちは毎日おやつもしたただのていまましたたがこんばんは、
きるものをいただきましました。きいてみると私にちやん
いので弟もよろこぶとよました。弟のなまは「は
うじ」です。きいます。きるものは「は」さんのもや「は」
ずほんてす。は「は」さんのは「は」さんか「は」さんか
りませんけれど、私は「は」さんか「は」さんか「は」
ちやんのとあなたはいくらですか。は「は」さんと「は」
ちやんが「は」するものも「は」さんか「は」さんか「は」
ちやんのと「は」さんか「は」さんか「は」さんか「は」
うちやんのかと思ひました。

恩賜
同胞援護會愛知縣支部

アメリカの皆杯

當地下は朝夕は申迄でも無く日中に1も流石に秋の一日射
と成り参りよる暑氣は昨日も今日も九十度を超へるかと思わ
れる暑さ下ごごいするなまなか残暑をぞと心の弛み一層か
却って堪へ難き心地が致しやす思へばあり恐しい戦争に夫
さうばかり家をおはれあちらごちら轉々といつ路頭に迷ひ涙
の毎日とすごい下ごごい私達母子三人今日はほ(とうに夢の
杯を日とすごさせ戴いて居ります二水も皆現在の和田母子
寮へ入れて戴き會長(始め寮長)寮母(寮母)の暖かいお
べづくりの許においで戴き申の出来お蔭と感謝致して
居ります其の上アメリカの皆杯の暖かいおべづくりの贈物を
度々戴きほ(とうに夢の杯を申ばかりです
たし(とうに)の衣料品を戴いた時の子供達の喜びをいふと去年に
持ちこたれたい品を胸に抱締りてび廻る姿もながめたい

私達母親の心はどんなにかうれしく涙があふれ出るのも
知らずじい(とう)と見詰り居りますこの有難い氣持は私達
まづ(とう)物だけのおべづりかへる事と思ひます今もかたわで
子供が一生懸命でアメリカのお友達に見て戴くのほどを言ひ
て居りますこの子の着ている物も皆戴いた物です何一つ不自
由無く人中へお下もはば(とう)無く過(とう)せるのも皆唯々皆杯の
お蔭と遠く日本の地より深く感謝致して居ります
この方方の(とう)とれお思ひ及(とう)の出来やす杯をおさな(とう)子供達に心につたは
たいと願(とう)つ居ります先は乱文にて失礼させ戴き遠く國より皆杯の
ゆき(とう)幸(とう)を福新(とう)申上ります

ララ中央委員會の中

群馬県 高橋市 高徳會

群馬県人 高橋市徳會 和田母子寮母

堀 春子

アメリカの皆様が元気がすが
私も元気で毎日学校に通って居ます
先日は色々とお送り下さりまして有難う
御座居ました。アメリカは常夏の國と
言ふが日本やうに寒くは有りません。よ
う。日本は今寒く冬です。私等はお正月
も近くなつて山と山は冬ごもで山の木は
今おちて。今は山の木も寒さにふるえ
私達も毎日寒さにふるえ居るところ
此の間にはけつこうなる品物を大
さいまして。私達姉妹はほんとうに喜
私も自分にこぞやまればやといつて
つた物をあげたと言つてはだは
はよくほげたと言つてはだは

私達はほんとうにうづししくつてうづししくつて
アメリカかの皆様のまついく／＼お心を有難
く思つて居ます。私は父をトラツク島で
うしなつてからはや四年の月日がたちます。
私は今日ほどうでしい日はありませんでした
お正月にも此のスイエータを身につけて
遊ぶのかと思ふとほんとうに
アメリカかの皆様に私のよろこぶお顔を見
ていたらききたいと思ひます。私は今年六年生
です。私も大きくなつたので遠く
大陸に行きたいときほうしながらん母は
学校に行つています。
どうか後々も私達に一回も早く手をたな
いづ平和な日本にして下さりませ

ア
×
リ
カ
コ

此
様
江

和歌山縣海草郡大崎村

井
東
礼
子

夕やみに螢とふかひの野にはほのかに白百合が白ふすかしく、新緑の候でございませう。こちからは今農繁期で麦の刈入れや、諸の植付中に忙し、日々アメリカの皆揃い、

なつかしい祖国をばなれ、遠く異國の空にお活躍下さる在米の皆を揃い、お元氣でいらつりやませうか。

此度は私共母子寮生に対し心からなる温かい贈物をご頂きまして何とお礼を申し上げてよろしい言葉もございませぬ

敗戦後か、また混乱せる社会、状態下におかれます。己れへ身をさへあつかひか

旧人の多し、中には、はるかに祖國の人々の困窮を思ひやられ、数々の品物

をお送り下さる皆揃の方の博愛の情、量かな愛の前、にたご頭の下の思ひで、一ぱいでございませう

私共職員は寮生のよろこびを以て即其身のよろこびとなし、共々貧しい母や子達の

のよき味方となりて日常をつつけて、いかもかてございませう

この度のら、救援物資をお受けいたしました時、五派な男児、女児、十児筒、洋服

靴などを子供達に分ち與へまして、そのよろこぶ有様、と目のあたりなため

思はつ涙ぐんだほどでございませう。

この母子寮に收容されて、いる方は全部で十世帯、三人おおりますが、それだけ

夫を失ひ、子供を二三人、或は、五六人もかへて、生活苦にあえいでおる氣の毒な未

成人ばかりでございませう。この人達にとつて、何れも、のよろこびは真心のこもつた贈

物、しかも日常生活に、かくことの出来な、不十分なこれらの品々でございませ

せう。私共は今更なるから、笑みこぼれて、嬉しがら、この母、この子達をかへりみて

いかに皆揃の方の苦心盡しに感謝いたしたか、おれませぬ

けり、祖國日本の同胞の上に救援の手をさし、おへて下さる皆揃の方

のけりなげな、お心持に、対して、こも、私共は、高へさう、これら、不遇の人々の友

に限りなき愛情と理解をよせ、なげな、なら、いかと思ふのでございませう

ここに寮生一同並に職員を代表いたしまして、この度の御寄贈に対し、厚く

感謝の意を表します

昭和二十四年 五月 二十八日

日本國 三重縣 南牟婁郡 木本町
三重縣認可 児童福祉施設 木本町立 木本厚生館

寮母 野呂 君

各ラ、救援団体 殿

拜啓。遠く海越へて御恵送下さりました。
美しいお心の品々を、今日役場の方々に分けて
いたゞきまゝに。

私方は母と弟二人と病氣のおばあさんの五人家
内です。父は戦病死しました。

私方は田舎の事です。お正月は旧です。
いたゞいた品々を旧正月に着せていたゞき
まして。今から楽しんでます。

何分お父さんが居なりの下何事も買ふ事
が出来ませんの下のほんとうに嬉しいです。

私が「ばん糖」のは「オーバー」なのです。
買ひ度い欲しいとお思つて居た「オーバー」
こちらでは、程沢山のお金がないければ

粗末な品物でも手に入れません。こんなに
よいお品下はとお恵を嬉しく思います。

色々の火山の品々をいたゞき、家内一同喜ん
びます。

色々書きたい事が山々あれど自分か
筆不精であります。お許し下さいませ。
皆様の御健康をお祈りいたします。

先づ御禮まで

さようなら！

坂本数子

アメリカの皆様永い間のラ、ラ、を通うての御援助有難う
ごちやうした皆様の御厚意によつて私達はどれ程助けられ
たこととせう心から御礼申上げます。

私達は今敗戦の祖國にありなから何の善き業も
為すことなく唯結核である故をもて病床に日を送り迎へ
て居るものです。思へば実にきびしい現実です。

か然しそのきびしい現実も決して辛しい悲しいことのみで
はありませんでした。殊に神様の御恵みと御榮光の為に
のみ生きまた死なんとする人々によつて仕へられて居る私達に
とつて、このやうな人々かそして亦このやうなところか此の世の中にあ
らうとは思はなかつたとは多くの病床の人々の告白です。そして
その上に加へられた貴國の人々の御厚意は如何ばかりでし
たとせう。誠に神はその御榮光の為に召し給ふ人々にその為す
べき勤めに必要なる一切のもれを備へて置き給ふとせう

私達の居る療養所も御厚意にもれず終戦後はひどい窮乏にお
そはれる一たそして如何になりゆくべきを知らなかつた時、從
業員諸氏の努力に加ふるに、う、う、からの衣類、食糧等の御援助
といた全能のまは、遂はその聖徒達に力強き御手を伸べて下
さうとした、それによつて私達は幾度かの餓えと寒さから救はれた
こととせう、誠にまはによりこころより皆様に感謝を致しませう。そして
その御援けに答へて眞実と敬虔とをもてこのよへられた病床をまの
御榮光の現はれん為に祈りつゝ再び立ち上るを許される日を以て
歩みを進め得んことを願つて居ります。

終りに心よりう、う、を通うて下されし皆様の御親切に
父なる神と、まはイエス、キリストの御祝福のありませうやう祈
らせて頂きます。

先づ神の國と神の義とを求めよ、然らばこれらの物は汝ら
に加へらるべし。

Amen

静岡県濱名郡三方原村 安間英行
聖赫保養曲農園内

敗戦の年の今日には病床に臥す私です。

かへり見る四年昔の私達の非心膽は如何ばかりだったでせう。

在相は乱れに乱れ正に蜂の巣をついた様とはあの様な事

ごうか。病傷を癒すべき病院内にも冷たい嵐が吹き荒れ

病を癒すほどは似ての外 其の日く。腹を満し日を送る

事やつとの事ごとく。

アメリカ軍の進駐………何と云ふ私達予想外の行動でせう！

乱れに在相も次々に温情有る立派な指導者に平和をとりに成して

参りました。病床の私達にも福音がもたらされました。オ一番の

私達の願いの立派な薬。是れです。ペニシリン、ポトレストマイシシ等々。

亦私達患者に必要な栄養食物。ラ、物を買ひる。な人と有難い

事ごうか。安心して療養を怠らぬ。今日あるは皆アメリカの人達の

温い情と厚く感謝しております。

国立姫路病院患者

吹き荒ぶ北風に例年よりも本年の各は又格別の酷しさを
 一九四九年も押し迫つて女子に可弱幼見五人抱えて
 この瀬を棄り切るかと途方に暮つてゐる矢先思ひかけない
 去喜と幸ひが暗い私の家におとづれて参りました。今茲に
 比叅々杵の國境を越え民族を越えこの深いく愛のうら
 物資に恵まれ私達母子は無事に過るく越年する。
 事が出来、新年を迎えさしていたぐことの有難さともとも
 口やべしでは言盡す事はお出来ません。父親を失つた子供達も皆様
 の厚い御厚情のお蔭で日々と明るく健やかに成育して行きます。
 日本では衣類不足のため到底私達の力では入手しがたき折柄
 数々の立派な品々を頂戴して本当に勿体ない位です。
 私は今それを前にして雀喜している子供達を見てこみあげる
 涙と共に心から深く感謝のまことさをさげます。
 そして此の御厚情の万分の一にもお酬いするためはこの雀喜
 している子供達を必ず世界平和の愛好者たる社會人
 として育て上げなければ相済まぬと心に強く誓つてゐます。
 愛のうら物資幾重にも御禮申し上げます。
 最後に皆様の御健康と御多幸を遠き日本の方すみ
 より心から祈り致して居ります。

和歌山縣日高郡切目村

山下美代枝

前客片免下さま也。夫をそくして早や四十年
 ほんとうに途下片ぞいきました。私達未三人
 の前途には何の光明も存くど、やっ、今日
 迄下生きた参りました。夫を無我無中片
 ざりました。夫を存つた時は九才を頭に四人
 の子供をかかへ、私達より苦しいお方
 有る事と思ひ、今日まで一生けんめに
 働か、つゞけ、参り、只今は母子寮に
 片やっかりに存り、寮のカン長様も
 よいお方に、子供にとつては父下あり
 又私達にしては友にかと心づかり、本當に
 友にかとめんど、みてもらひ、んな幸福
 は、友といつても、カシヤ、致して居る、やさきに
 此度のら、柳濱下す、ほんとうに夢か、と

ばかりー只々水しく涙あふれるばかりです
 私共にとりて今回ははじめての配命のたが来の子の
 美重子には水はくあり通リ
 力又たんつう。子供よりこそ通リ
 にはありません今までもやぶれ着
 せ自身につけて。ありませんあかぢ様
 で大へんにたすかりました此の上は
 子供達を強く正しく育つ上ぢ此の
 常あんにむくゆる決心で居ります
 つたなりの文直でござりますか此の
 水じり感謝にみちた心の中を。あせし
 下させませ

五月三十一日

日本國 三重縣 南牟婁郡 木本町

三重縣 福徳町 児童福祉施設

木本町立 木本厚生館内

寮生

田代 だる

此の如くうらの海軍の意にしようとして再び保母に首らるるを贈物と
次に保母に有難うございまして保母一日海軍の意を感謝し
にこころとそなたにこそ一ひびかりました保母の行は由にしよう
がなごころは充分な孝行を果す事が出まわらないと思ひますが、の
贈物にしようとして一つの刺戟とあへられはげますされ一増その
修務に精勵せす標にならうとした方おては祈り上ますと其に
贈られし一た昔の標にしようの豊かなる海軍のめります標
心より祈ります 次なる各園の標標と一上り上り
位置は島前市の東、久松山の下にあつて島前縣廳の裏に
ありたり。そなた又は住宅のめりところにて割合静かな場所にてござい
ます。何がたえます。片暮らうとたります。園思の申ひみ
はソラもソラもはいじ、とてわうとたります。目下園思は百三十名
収容はうとたります。此等は幼稚園のみはうとたります。たが
う五年一ぼかりは保母所も兼ねます。家庭を助けながら

幼児の教育とは云々あります。何か昔國の女の言と異なりまして
家庭婦人の知識も少く幼児の教育につけても大いに多くさせ
られ何れは母と子の教育にのりませうとはなすかたを考へて
あります。月回集の事と云々もなす。出生から現状まで
いふあります。何か作らる事も多うあります。日本は有様も
いふあります。昔近下にもうす。保育所にもお子様の印とく給食が
出まます。福進話集の方におはからいゆきまして。子供も祝
も保母もよろうえじたります。考へては有意をゆきまして幼児
育のよりの教育とさせてゆき。皆様に感謝の出生あつた福な考へ
しゆりゆきしてたります。年長組の児一〇五年女組児二五保母六
看護婦と云々計七名。死は八時から早いとき二時半おそいとき四時
迄たてゆきます。此頃日本は梅雨期と申すも、毎子^絹糸
か、くもの曇の掃なふきにふきに雨が降るも、くも外でおふ事
が生ままさせん、時々日光の出る時があります。島内地方は日本中



アメリカの皆様 御元気でいらっしゃいますか
 何時も御親切に色々温かいあついで贈物を頂戴いたしまして
 有難うございます 私も療養所にあります
 御蔭で毎日元気で養生してあります
 そしていつも皆様方の温かい贈り物を感謝して頂戴して
 居ります 本當に有難う御座居ります 私の國では
 今年も珍らしく暖い冬で 庭の梅の花も早や咲き
 揃ひました もうすぐ春があとづれます
 春になりますと 私達の國花である櫻の花を始める色々の
 美しい花が咲き揃ひます
 一度皆様春の日本へいらっしゃいますか お待ちして
 居ります 私達も皆様方の温かい心に副ふ事のできる
 様に一生懸命に養生いたし 一日も早くよくなろうと思ひ
 ます

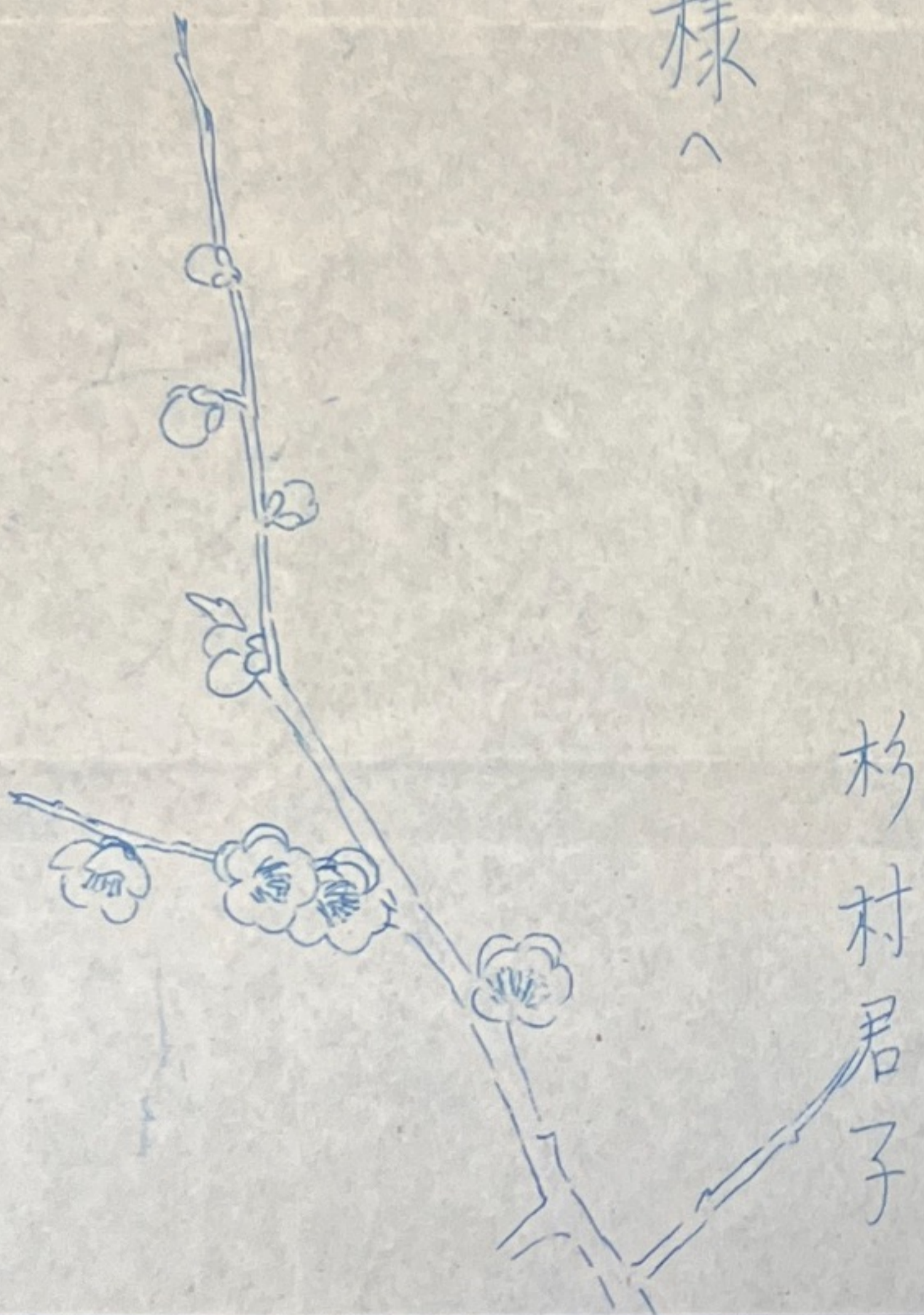
では皆様 今後ともよろしく御指導下さいませ

二月十日

杉村君子

さようなら

アメリカの皆様へ



謝 辞

今度私達が経営している小松廣濟舎の被收容者に対し
しうラ救援物資中央委員会から皆様方アメリカ本國で
の委員各位が汗と愛の結晶に下って御纏め下さいました
アメリカ國篤志家各位の深き御理解と御同情とによつて
得られたに数々の而も我等日本國民として容易に得が
たい数多の食糧に衣料に又被收容者達の滋養價賤
しいミルクシートなど多量に御惠賜を忝とし身重なり
者のいかに養老者達一同は恰も早天の慈雨の如き多
大の恩恵と蒙ったのでこれに御努力力下さりました委員の方々
貴捨下さりました篤志家の御芳志に対しては只心管感
謝感激いたして餘生をこの念で過さんことも誓っています
更に今度は我等職員に対しても貴重なる衣料品の配分に
預りましたので一同はこの御懇情に感謝いたして今後層
層相協力してこの施設運営の万全を期してアメリカ國
篤志家の御芳志に酬いんと御誓いいたしてあります
以上は指辞でありますか今度うラ救援物資の配分に預
りました被收容者及び職員一同を代表いたして感謝の
意を表します

昭和二十四年七月 日

財団法人小松廣濟舎理事長 松岡慶忍



NEW YORK JAPANESE AMERICAN COMMITTEE
for
JAPAN RELIEF, INC.

330 EAST 57th STREET • NEW YORK 22, N. Y.

Telephone: PLaza 3-6752

第一回常議員會

時日 千九百四十七年九月十二日 午後八時開會

場所 於紐約日本キリスト教會 330 East 57th St. New York City

出席者 二十一名 山田 志垣 清水 芳賀 川俣 大村 河内 本間 安井 岩崎

西野 岡島 松岡 鴨井 松尾 片桐 井上 貴田 桑島 何本 小林 中川

一本間會長によりて開會す。

一 山田主事の前回總會報告

一本會メーリレグリストを沖繩救援會へ貸與の提議

イ、前回常議員會の記録不明のためあらためて常議員會のみにて本會

メーリレグリストの貸與を決定する提議可決

ロ、今回万場一致にて沖繩救援會へメーリレグリストを貸與する提議可決

一、救援基金募集方法提案

日本救援紐育委員會

NEW YORK JAPANESE AMERICAN COMMITTEE
for
JAPAN RELIEF, INC.

330 EAST 57th STREET • NEW YORK 22, N. Y.

Telephone: PLaza 3-6752

- イ、現金ドネーションレバサリ、活動、ダンス、演藝會（ロタリオンを含む）
- ロ、山田、主事提出のフレンドサーヴィスの印刷物使用可決
- ハ、時日十月早々開始する事
- ニ、文章作製役員に中川、高見、芳賀、松岡を任命
- ホ、メーリゲ役員に山田、片桐、河本、岡島、四教會牧師を任命
- ヘ、戸別訪問昨年と同様に行ふ事可決
- ト、催物研究委員に、岩崎、中川、山田、志垣、松尾、芳賀、松岡、林々々
西野を任命す
- 右、委員の次回常議員會に提案の事
- 一、午後十時をもって常議員會閉會

日本救援紐育委員會

NEW YORK JAPANESE AMERICAN COMMITTEE
for
JAPAN RELIEF, INC.

330 EAST 57th STREET • NEW YORK 22, N. Y.

Telephone: PLaza 3-6752

第二回常議員會

一、一九四七年十月十七日(金)午後八時半開會

一、於福音日本人キリスト教會會堂

一、會員十八名出席

清水、岡島、前田、芳賀、鴨井、志垣、中川、貴田、岩崎、小林、小林

畑、河本、井上、松岡、松尾、片桐、本間

一、松尾會計、會計報告

資金募集 五十二口、金千六百八十二弗、四十仙也

一、研究委員令報告、松岡委員の報告

一、二世を主にするダンスを十一月より一月中に行ふ事

純益は約千弗

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百

日本救援紐育委員會

NEW YORK JAPANESE AMERICAN COMMITTEE
for
JAPAN RELIEF, INC.

330 EAST 57th STREET • NEW YORK 22, N. Y.

Telephone: PLaza 3-6752

ハ、ロタリー 何時でも好機を利用する事。

一、ダンスの件。各ニ世だん体のリーダーを招へて相談し案を作る事。
會長に委任。

一、ヴァライテイ・ショウの件。左の委員任命。

委員長に 松岡、補佐に 岩崎氏

宣傳部長 芳賀、 演藝部 松本、小林

會場 中川、志垣、 会計 松尾

一、ロタリーの件。

委員長 前田、 委員 トム林、岡島、心太郎、河本、西野

一、募集資金対策

昨年度に比し 至極悲觀的状況に於て左記の 作をこなす事

に決定

日本救援紐育委員會

NEW YORK JAPANESE AMERICAN COMMITTEE
for
JAPAN RELIEF, INC.

330 EAST 57th STREET • NEW YORK 22, N. Y.

Telephone: PLaza 3-6752

- 一、ワールド委員に追手紙を出しもっと集金を促す事。
 - 二、ローカル紙(教會週報或は月報)にて接極的廣告をする事。
 - 三、新聞紙上を利用する。
 - 四、リマイレター、ポストカードを。
 - A、文~~筆~~^章委員、中川、芳賀、松岡、高見。
 - B、メイレグ委員、山田、片桐、河本、岡島、四教令牧師。
 - 五、佛教會共 会への当令メイレグリスト貸出の件。
 - A、共 會へ貸出可決。
 - B、佛教會へ貸出可決。
 - 六、沖繩救 へのメイレグリスト貸出の件。

中村、山田、井上、松岡、本岡の五名の集合にお互に話し合ふ事。
 - 七、ピーニング代の ぬよるガイニス嬢講演令の件 中止可決。
- 一、閉會十一時四十分。
- 日本救援紐育委員會

NEW YORK JAPANESE AMERICAN COMMITTEE
for
JAPAN RELIEF, INC.

330 EAST 57th STREET • NEW YORK 22, N. Y.

Telephone: PLaza 3-6752

イ、本同、會長よりダンスの報告あり。

十月五日に各二世団体の代表その他並ある二世諸氏に會見、種々討議の結果、十九日にカニ回會合をするに決す。

ロ、畑氏よりカニ回會合報告を聞く。

ジョージ・ミヨ、桑山英一をコ、ケエヤマンに石黒マリ子嬢を秘書に推選し、十二日のカニ回會合を用意「ダンス」に就き研究する事に決す。

目的は来年の四月末に大々なダンスを開き、同時に団体をいづかむ種々の催しを行く寄附し、金と合せて約千弗にする見込みを建てる。

ハ、會場委員(中川、志垣、西氏)によりマレハタレセレターの提出あり。

ニ、

日本救援紐育委員會

第三回常議員會

十一月二十八日午後八時半開會

一、十五名出席者左の通り、本間、山田、前田、河本、井上、松岡、小林、西野、岡島辰吉、
畑、松尾、大村、岡島心中、川、志理、清水、岩崎、片桐

一、松尾會計長の會計報告

二十日の附寄附金は金々四百五十円也

合計三百三十四口、合計額、金七千六百四十三円十五仙也

一、山田主事の報告

ホーレルミルク(四十二仙ボイド) (ジュマニック) (ミルク) (ポロケット) (ドライフルートの三種を

フレット派を送る由

イ、先づ送金七千円を可決

ロ、ホーレルミルクを送るに可決

一、演藝會の報告

日本救援紐育委員會